



# さつきの丘だより

竹村内科・腎クリニック通信

〒322-0029 栃木県鹿沼市西茂呂 4-46-3

Phone;0289-60-7577 Fax;0289-60-7578 URL:http://take2002.on.arena.ne.jp

外来診療編

## 増築工事竣工！

1年かかった増築工事が竣工しました。工事中は、騒音・振動・臭いなどで、大変ご迷惑をおかけしました。点滴や検査処置なども臨時のスペースで申し訳ありませんでした。これからは、外来診察室が2つから4つに増え、点滴などを行う処置室も大きくなり、X線CT撮影装置や内視鏡などの医療器械の導入も予定しています。透析室は最大70台まで対応できる広さになりました。腎臓病はもとより、地域医療の一翼をになう施設に成長しています。「さつきの丘だより」の次号からは、電子カルテ、動脈硬化検査、環境ホルモンフリー透析などを、順次紹介していきます。お楽しみに！

な飾り付けを目指しましたが、鹿沼冬まつり・イルミネーションコンテストで、「ほんのりやさしさが光るで賞」を受賞しました！12月2日に「まちなか交流プラザ」で表彰式があります。昼の顔と違う夜のタケクリを見に来て下さいね。



## タケクリなヒト

今回紹介するのは、技師長の宇佐美徹さんです。透析治療を中心に医療器械全般の管理にあたる、臨床工学士です。プライベートでは少年野球の監督もつとめ、みんなから頼りにされています。いつも笑顔で、竹村内科の癒し系的存在です。これからも笑顔でみんなを癒してください(^3^)



## イルミネーション

恒例のクリスマス・イルミネーションはじまりました。2002年から、鹿沼で初めてトナカイを使い、街づくりを意識した飾り付けのバイオニアと自負しています。今年のテーマは『天使達の楽園』です。小さな天使達の声が聞こえてきそうですね。シンプルでクール

## 木もれ陽



インフルエンザの季節がやってきました。予防の基本は、こまめにうがいと手洗いをし、栄養のある食事をとり、よく休むことです。ウィルスの侵入を未然に防ぎ、たとえ侵入されたとしても、やっつける体力をつけておくことが大切です。予防接種がおすすめですが、WHOの予想に基づいてA型とB型のウイルスに対してワクチンを作ります。100%の予防効果があるわけではありませんが、重症化を防ぎ、合併症が減ることが期待できます。もし罹ってしまったら、早めにお医者さんにかかりましょう。

ウラも見てね

# 医学のトピックス

## 現在のワクチンは、鳥インフルエンザには効かない。

もともと、鳥インフルエンザウイルスは、太古の昔から渡り鳥などの野鳥の病気でした。あまり毒性が強いと感染した鳥が死んでしまい、ウイルス自体も子孫を殖やすことができないので、ほどほどの強さの病気として、安定して野鳥と共存していました。人間が野生の鳥を飼い慣らし、多数の鳥が狭いところに密集して飼育されるようになりました。元来は野生の鳥の病原体だった鳥ウイルスが、ニワトリやアヒルなどの家禽に感染し、新しい環境に適応しようとして、猛烈に突然変異を起こし始めました。そこで毒性の強い鳥インフルエンザが生まれました。この鳥インフルエンザウイルスは、人間にはめったに感染することはありません。中国などの東アジアの国々では、ニワトリとともに、ブタを飼育しています。鳥インフルエンザは、ブタには感染することがあります。そして、ブタにはヒトのインフルエンザも感染することがあります。そしてヒトと鳥の両方のウイルスがブタの体の中で「あいのこ」を作ります。これが、ヒトにも感染する新型インフルエンザウイルスです。明治時代の「スペイン風邪」など、歴史上ときどき発生して大きな被害を起こしました。新型なので人類は誰も感染した経験がなく、免疫がないか



らです。今回の鳥インフルエンザは、東南アジアなどで鳥と濃厚に接触する養鶏業者などの限られた人に感染し、死者も出ています。まだ十分人間に馴染んでいないので、ヒトからヒトには感染できないようです。もし人間に適応したタイプに変化して流行した場合、日本では4人に1人が感染し、最悪で2～3%の死亡率が見込まれます。流行するウイルスの型が決まって、それからワクチンを作り始めるので、予防接種の準備には早くても半年かかります。今現在のワクチンでは予防できません。それまでの治療には、タミフルが有効です。

## インフルエンザの特効薬の主原料は、中華料理のスパイスである。

抗ウイルス薬「タミフル」の主原料は、八角（スターアニス）というモクレン科の植物の実です。インフルエンザの増殖を抑えるので、新型ウイルスにも有効なはずですが、発熱後48時間以内に飲み始めないと、効果が期待できません。この薬を飲んですぐに子供が異常行動を起こした例があるようですが、そもそも脳組織には移行しない薬剤です。もともとインフルエンザになると、「脳症」と言って異常行動が出現することがあるので、病気のせいでおかしな行動を起こした可能性が高く、薬の副作用とは言いにくいわけです。つい先日ですが、厚生省の研究班は、子供のインフルエンザで脳症の可能性のある場合

は、速やかにタミフルとステロイドホルモンを使うように勧告を出しました。それだけ大切な治療薬です。万一の新型インフルエンザ流行に備えて、国が中心になって備蓄が進められています。